

反核医師の会 HANKAKU ISHI no KAI News

Physicians Against Nuclear War(PANW)
核戦争に反対する医師の会

〒151-0053 東京都渋谷区代々木 2-5-5
新宿農協会館 全国保険医団体連合会内
電話 03(3375)5121 FAX 03(3375)1885
e-mail: panw@doc-net.or.jp
http://no-nukes.doc-net.or.jp/

第14回 全国大会 開催

核戦争に反対する医師の会



午前中の全国大会の模様

6月10日、第14回反核医師の会全国大会が、全労連会館8Fで開催された。

全国から世話人が集まり、2017年度の各地の活動報告がされ、次年度の活動方針についても活発な議論が行われた。

午後の記念講演では、共同通信編集委員の太田昌克氏を講師に激動の朝鮮半島と核―被爆国の役割とトランプリスク―をテーマにお話しいただいた。

大会は、雪田常任世話人を議長に選出し、議長より開会挨拶を行った。

議事では、中川代表世話人より、2017年度の反核医師の会の活動のまとめと2018年度活動方針に基づき、報告がされた。

さらに、原代表世話人より第10回IPPNW北アジア地域会議、韓国訪問等について、報告がされた。武田常任世話人からIPPNW北アジア会議の報告補足がされた。

追加報告として、青木

核兵器廃絶の共同と核兵器の非人道性を訴える活動を広げる

常任世話人よりフォーモア・ヒバクシャ訴訟について、事務局より、第29回反核医師のつどいin長崎の準備状況について、原代表世話人により、学生部会の活動について各活動の報告がされた。

また、討論の中で、三宅世話人より、JPNW京都支部の活動の様子について、期間常任世話人より、ビキニ核被災元船員の労災申請、国家賠償請求について、白崎常任世話人より、核戦争を防止する石川医師の会の活動について、報告がされた。川西世話人より、元自由民主党幹事長の古賀誠氏をお呼びして市民

公開企画を予定している旨の案内があった。

2018-2019年度役員体制の承認について、飯田代表世話人より新年度の役員体制案について報告があり、承認し

た。新任の仲間、佐藤、樋口各常任世話人より就任挨拶を受けた。

最後に、方針案、議案の採択が行われ、拍手で承認された。38人の参加。

さてトランプ氏の希望は、北朝鮮の非核化・朝鮮戦争の終結・在韓米軍の縮小・韓国と日本による北への経済支援・ノーベル平和賞の受賞などとされている。

これに対し日本政府はトランプ氏を称賛し、我等の血税を惜しげもなく投入して役目を果たしたことにするのだろうか。拉致問題の解決はまた後回しか。

沖縄では、今日も辺野古基地建設が強行中だが、朝鮮半島の民主的和平構造の成立が見通せるとなれば、在日米軍縮小も主張すべきではないか。

そして、広島・長崎・福島、三たびの被爆体験国として核廃絶への姿勢はどうなのか。

日本国民自らの課題として、真の民主主義を問うべき時期ではないかと考える。

激動の朝鮮半島と核

―被爆国の役割とトランプリスク―



講師の太田昌克氏

トランプ大統領と金正恩委員長による史上初の米朝首脳会談の2日前、当講演会は開催された。

まず、4・27板門店での南北首脳会談の様子から、ベンチに腰掛けた首脳同士の話に触れた。

音声はないが、読唇術士によると【核・アメリカ・トランプ】この3ワードが頻りに出たという。

金正恩氏はトランプ氏との交渉法や人柄について文在寅氏にさかんに尋ねていたようだ。

それだけ米朝首脳会談を切望していたと思える。日本人の北朝鮮に対する感情は、大方ネガティブであろうと想うのだが、太田氏の講演と資料等を参考に歴史を顧みると、各時代における各国事情があり、そこから派生する北の苦悩も窺い見えてくる。その中には、朝鮮戦争とベトナム戦争、韓国の核開発と冷戦崩壊（1991）と孤立といった歴史の激流に翻弄されながら、既に1968年に金日成主席が核開



熱心に講師の話に聞き入る参加者

さてトランプ氏の希望は、北朝鮮の非核化・朝鮮戦争の終結・在韓米軍の縮小・韓国と日本による北への経済支援・ノーベル平和賞の受賞などとされている。

これに対し日本政府はトランプ氏を称賛し、我等の血税を惜しげもなく投入して役目を果たしたことにするのだろうか。拉致問題の解決はまた後回しか。

沖縄では、今日も辺野古基地建設が強行中だが、朝鮮半島の民主的和平構造の成立が見通せるとなれば、在日米軍縮小も主張すべきではないか。

そして、広島・長崎・福島、三たびの被爆体験国として核廃絶への姿勢はどうなのか。

日本国民自らの課題として、真の民主主義を問うべき時期ではないかと考える。

の講演は『世界の歴史には連なりと流れがあることを再認識する機会』となった。

そして、広島・長崎・福島、三たびの被爆体験国として核廃絶への姿勢はどうなのか。

日本国民自らの課題として、真の民主主義を問うべき時期ではないかと考える。



原発事故後7年の福島は「復興・再生に向け」本格的に動き出し、その推進には「風評払拭」が最重要と安倍政府が強調してきている。また原発事故での健康被害はない灯とし、甲状腺検診「縮小論」がにわかに叫ばれてきている。

昨年12月の「風評払拭・リスクコミュニケーション強化戦略」（復興庁）では、福島県の復興・再生の最大障壁が根強い「風評被害」であり、原子力災害起因の「いわれの偏見や差別だ」と断じた。

そして、この「風評」は科学的根拠に基づかないものであり、「福島県の現状についての認識不足」「放射線に関する正しい知識」や「食品中の放射性物質検査」の結果等が「十分に周知されていないこと」に主因があるとしている。

「放射線リスクに関する基礎的情報」の発表は4年前だった。放射線リスクを「正しく」理解し安心して帰還してもらおう福島県民向けであった。今後は広く国民一般を対象としたリスクコミュニケーションが重点と、全国民をターゲットにしてきた。

同じ頃より、県民健康調査・甲状腺検査評価部会の中で、新しい委員達が、「甲状腺検診の倫理」「メリット・デメリット」論を主張している。呼応したように透けて見えるのは先入見だろうか。

(○)

6月10日、第14回全国大会で常任世話人になられた2人の先生方に平和への思いを書いていただいた。

平和への思い

京都府歯科保険医協会 理事 佐藤 晋



今年から非核平和部会、反核医師の会を担当させていただくことになりました。

「平和とは何か？」と問われると、答えはわからないと思うのが正直な考えです。

「戦争の無い状態」とも考えられますが、そう単純な回答ではないと思います。

それでは「日本は今平和か？」と考えてみると、いつ何時殺されるかわからないという恐怖感を持つことはほとんど無いと思いますが、確かに日本政府の外交もあり、70数年前のような無差別な空襲を受けることはなくなりました。

しかし、外国のミサイルが日本の上空を飛び越えたり、領海、領空侵犯が頻繁に起きていることを考えると安心して堂々と「日本は今平和である」とは言いきれないように思えます。最近では国対国の戦争とゆうよりも、むしろテロの方に恐怖を感じます。

欧米では街中で銃を乱射して多くの人が殺されていますし、日本でも時限爆弾や毒ガスによるテロが起きています。さらにカルト教団によるクーデターの計画も明らかになっています。

2020年には東京オリンピックが開催されます。開催中は多くの人々が東京に集まり、大混雑になるでしょう。外国人も多く、テロの標的になることが懸念されます。どうか平和の祭典が無事に開催されることを切望します。

沖縄県民の生活がより良く平和に近づくように

沖縄県保険医協会 理事 樋口 豊



平和への思いを、リンクエストされた。

多くの人や民族を巻き込む争い、宗教や文化による争い、あるいは資源や経済に端を発する国レベルでの争い、これ

ら全ての争いのない状態は平和なのか？ 私は、平和とイコールではないと考える。

今の日本には命の危機に晒される紛争はないが、自助努力が及ばず不可避な心配事があったり、言い知れぬ不安などを抱えて生きる人達がいる。そういったマイナス因子を放置したままの社会を平和な社会とは思えない。

公的私的を問わず、産官学を問わず、国・県・市町村のレベルを問わず、社会のマイナス因子を取り除き、貧富を問わず希望を持ち夢に向けて頑張る気持ちになれる社会、またはそれを目指す社会が望ましい平和な社会の形ではないかと思う。

私は今、沖縄の基地返還地に生まれた街で平凡な幸福感を持って暮らしている。でも、すぐ身近な生活圏に

この思いをみんなに伝えたい

反核医師の会学生部会

フィールドワーク(FW) in 広島

5月26日・27日広島で第5回学生部会のFWが開催され、医学生21名、研修医3名を含む40名が参加した。

26日は、青木反核医師の会常任世話人の案内で、昨年亡くなった肥田舜太郎先生の被爆当時の足跡を歩き、被爆樹木、陸軍病院跡、広島城跡などを見学した。その後、七宝作家で被爆者の田中稔子さんから「被爆体験から核廃絶を考える」というお話を聞いた。田中さんは海外での講演の経験から、原爆は広島・長崎のヒバクシャの問題ではなく、日本人の問題として捉えられており、日本人として原爆の悲惨さを是非語って欲しいと話された。

27日は元広島大学教授で長年被爆者の医療を担ってこられた鎌田七男先生から「被爆者援護、放射線被曝の人体影響について原発事故から7年現在の状況」というテーマでお話を聞いた。鎌田先生は、「原爆投下の非人道性」の意味は、原爆放射線が身体の細胞に遺伝子異常を起こさせることであり、その中で、2つ目、3つ目のがんを生み出し、精神的な不安を生産にわたる付きまとわせ、家族崩壊や貧困などによって「生涯虐待」の状態に陥らせることであると述べられた。

グループに分かれてグループ討論を行い、それぞれの討論の内容が報告された。その中で、被爆樹木は言葉で語ることができないけど伝わってくるものがある、被爆を体験していない自分たちの世代がどのように語っていけばいいのか、医師は医療の現場で患者を治すことが使命だけれど、いろんなことを学ぶことが患者さんと向き合う時に大切なことだ、ここで学び感じたことをまわりの友達に是非伝えていきたい、などの意見が出された。最後に、各グループの報告者に、田中さんがICAN支援キャンペーンとして提供されたブローチが青木常任世話人からプレゼントされた。

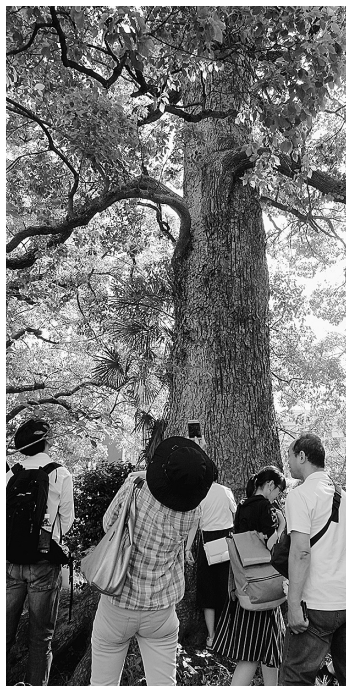
今回で5回目の学生部会のFWとなるが、この5年間で参加した医学生も、そして学生部会も大きく成長した。来年も5月末に長崎で開催の予定である。今後、各県の反核医師の会としても、各県の医学生への援助を期待したい。

反核ニュースへのご意見・感想・ご希望の紙面企画などなど…なんでもお寄せください。

〈連絡先〉

E-mail: nonukes.panw@gmail.com

FAX: 03-3375-1862



講師の話を熱心に聞く参加者

2018年反核医師の会(PANW)と韓国反核医師会(DAN)との交流報告



韓国DANの皆さんとの記念撮影
(聖公会ソウル大聖堂 中庭にて)

PANWとDANとの交流会を開催

前回は2013年7月13日から15日にかけてPANW、メンバーが韓国を訪れ、釜山からウオルサン核発電所を見学し、その後、ソウルでDANとのセミナーを開催した。これが正式には、DANとの交流の第1回目となる。

前回のDANとの交流から5年経過している。

今回の概要

今回、日本からの最終的な参加者は、22人となった。医師が14名、家族が4名、事務局4名であった。

懇親会

7月14日の夜はDANのKim Mi Jung 医師とKim I K J yung 医師とともに食事をした。懇親会を開催した。

セミナー

一番遠い国…韓国への旅

常任世話人 白崎 良明

琵琶湖畔坂本で生まれた母は秦姓、切れた目じりなど、私は間違いなく朝鮮渡来民の末裔だと考えてきた。IPNWモントリオール大会参加をはじめとして、北欧の医療・福祉の見学、スペインでの国連高齢者年NGO集会など外国へは今回行ったが、日本から最も

昼食交流会

その後、DANの招待で近くのレストランで食

うテーマで報告し、意見交換を行った。韓国側からの参加者は14人であった。通訳はファンさんをお願いした。今回の韓国側の報告は、統計的解釈が多く、難解な内容であったが、ファンさんの通訳が的確であり、十分理解することができた。

だしのゲン」を読んで初めて核戦争の被害を理解することができた。と聞いて「はだしのゲン」を世界中に広める意義を再確認した。

自由時間に通訳のファンさんの案内で西大門刑務所歴史館、李韓烈記念館、それに市場、旧市街区などを訪れた。

西大門刑務所歴史館

は、民族独立運動活動者への日本帝国主義の弾圧の歴史を展示により、よく理解できた。朝鮮民族を抑圧した歴史に対して無学を反省し、再学習とともに、日韓友好を正しく発展させるために必ず、訪れる必要があると思った。

李韓烈記念館は、1987年の民主化運動の中で催弾の直撃を受けて亡くなった大学生李韓烈をたたえ、遺品などとともに全斗煥軍事政権から、民主化を勝ち取った歴史が学べた。初めて韓国の民主化運動の偉大な歴史を知り、感動。「はだしのゲン」朝鮮語版、英語版寄贈を約束。帰国時の機上で鑑賞した光州事件を題材とした映画「タクシードライバー」とともに、この民主化運動は映画化され「1987、ある闘いの真実」として秋以降、日本でも公開されるようだ。「タクシードライバー」は韓国で1000万人以上が

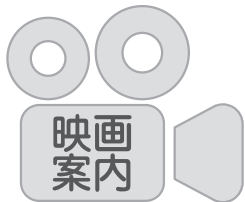


15日 ランチ交流会 (月香にて)

鑑賞したという。歴史の真実を映画化する取り組みや、西大門刑務所歴史館においては多数の小・中・高校生数人グループがボランティアから説明を聞き、李韓烈記念館では親子3人で訪れた母親が幼い子供に熱心に説明しているのを見て、韓国における民族意識の高さを実感した。

楽しく食べるのが大好きだが、辛い物は苦手な私、ファンさんに連れられてキムチを含む韓国料理に大満足。生きたタコを野菜とともに鉄板焼きしてスープとともに、干し鰯と牛骨スープとの朝食、牛肉のいろいろな部分をスープで煮てスライスした牛肉とそうめん、市場食堂での冷麺、交流昼食会でのアワビの乗せられたおこげご飯、最終日の焼き肉パーティ、いずれもキムチ、野菜が添えられててだが、喉元を過ぎると不思議と辛さが感じなくなつて楽しむことができた。アルコールを楽しむだけの私にとつて淡泊すぎるビール、焼酎より、初めて飲んだマッコリが気に入った。

私にとつて遠い国は、今回の訪問で極めて近い国となった。日韓の歴史を学び、自然、文化と韓国料理を楽しむために再訪したい。



「いしづみ」

是枝裕和 監督作品

制作 ドキュメンタリージャパン

太平洋戦争末期、広島県立第二中学校の生徒たちが建物疎開という勤労働員のさなかに被爆した。このドキュメンタリー映画は一年生321人について一人ひとり、遺族の手記に基づいて物語られる。オリジナルは1969年に広島テレビが

制作し、広島市出身の大女優・杉村春子の朗読によるもの。2017年にリメイクされた本作品は同じく広島市出身の綾瀬はるか、誠実な語り口で朗読を務める。

戦時中とはいえ垣間見える中学生の日常生活が朗読の中で浮かび

上がる。空襲を避けて関西から広島に移ってきた中学生が少なくなかったとのこと、少しでも安全な所へとわが子を遣った親御さんの胸中はいかばかりか。その日出かけるまでの朝の様子、登校中のできごと、どこで被爆の瞬間を迎えたのか。受

傷の様子や避難の経路、道連れ、そして家族に会つてから息を引き取った経過や、変わり果てた姿となった息子を探し出した親の嘆き。

少年たちの家族が生存者を探しては懸命に聞き取りをして、最期の姿を書き残した思いが、一人、また一人、と積み重ねられる。同じ日に肥田舜太郎先生のとどつた経路を丹念に再現してくださった広島青木克明先生の文章が、私の頭に何度

も浮かぶ。爆心地直下の少年たちと、救護に駆け付けた医師。その日の広島では年齢も立場も異なる人たちが、いろんな形で被爆をしていたのだ。一つの原子爆弾が、一人ひとりの人生をそれぞれ破壊したことに、改めて気づかされる。足し算をして何十万人が被爆、などと言つてはいけな

いことに。映画の後半では池上彰氏が、広島二中一年生の生存者を訪ねるシーンが織り込まれる。

常任世話人 布村眞季

核兵器禁止条約の発効で
長崎を戦争による最後の被爆地に

第29回

反核医師のつどい in 長崎

11月3日(土)・4日(日)

日時 2018年

場所 長崎原爆資料館ホール
〒852-8117 長崎市平野町7番8号
TEL: 095-844-1231

参加費 医師・歯科医師 / 5,000円
医療関係者 / 2,000円
医・歯学生 / 1,000円
両日参加でも参加費は変わりません。

Implement the Treaty on the Prohibition of Nuclear Weapons to ensure
Nagasaki is the last place where nuclear bombs were used in war.

1日目 11月3日(土・祝) 13:30-18:15

全体会 13:30-14:00

第一部「被爆証言」 14:00-16:45

① 長崎語り部による被爆体験講話：田中重光氏
② 被爆体験者聞き取り調査の報告：松延栄治氏
③ 長崎原爆の残留放射線：本田孝也氏
④ 松谷訴訟のたたかい：松谷英子氏
⑤ 映画紹介『長崎の郵便配達』：川瀬美香氏
⑥ 高校生平和大使

第二部「福島原発」 17:00-18:15

テーマ：福島第一原発事故から7年
—被害の構造を見つめて—
(講師：福島わたり病院医師 齋藤紀氏)

レセプション 18:30-20:30
会場：宝来軒別館【龍踊り(じゃおどり)】

2日目 11月4日(日) 9:30-12:45

記念講演 9:30-12:25

テーマ：核兵器禁止条約の発効で
長崎を戦争による最後の被爆地に
共催：IPPNW 長崎支部(核戦争防止国際医師会議)

〔講師〕
・ティルマン・ラフ氏
(IPPNW共同代表／iCAN共同設立者)
・朝長万左男氏(日赤長崎原爆病院名誉院長)
・中村桂子氏(長崎大学核兵器廃絶センター准教授)

全体会 12:25-12:45
まとめ／アピール採択

オプション
被爆遺構めぐり 13:30-15:00



主催：第29回核戦争に反対し、核兵器の廃絶を求める
医師・医学者のつどい実行委員会

お問い合わせは 反核医師の会事務局(担当：松本)まで
☎ 03-3375-5183

会費納入のおねがい

反核医師の会は、会員のみなさまの
会費と、主旨に賛同いただいている募金によって運営してい
ます。

今年度は例年開催の「つどい」を11月3日(土・祝)～11月
4日(日)に長崎で開催するほかに、様々な取り組みが予定さ
れています。

2018年度(2018年4月1日～2019年3月31日)会費納入のほ
ど、よろしくお願いいたします。

個人会員(医師・歯科医師、医学者) 10,000円
医・歯学生会員 1,000円
賛助会員 1,000円

振込先

◇りそな銀行 新都心営業部 普通 1557502
「反核医師・医学者の集い」
◇ゆうちょ銀行 (他銀行からの振り込みの場合)
〇一九支店
当座 0056764
「反核医師・医学者の集い」
◇郵便振替
00170-7-56764
「反核医師・医学者の集い」



第10回 IPPNW 北アジア地域会議開催案内

第10回 IPPNW 北アジア地域会議がモンゴルのウラン
バートルで開催されます。
仮プログラムが分かりましたので、お知らせします。

第10回 IPPNW 北アジア地域会議

開催日：2018年9月13日(木)～14日(金)
モンゴル外務省カンファレンスホール(モンゴ
ル、ウランバートル)
目 的：核兵器の脅威について理解を広め、北東アジア
非核兵器地帯の成立を促進する。
健康面および環境面での放射線に関する知識を
共有する。

主 題：安全で平和な未来のための共同行動
期待される効果：北アジア諸国が協働する必要性につい
て理解を共有し、将来の共同研究の実施を推奨
し、健全な環境と人類の健康、そして平和を確
かなものにする。

運 営：IPPNW モンゴル支部(MPPNW)
仮プログラム：9月13日(木) 基調提案
シンポジウム1、昼食、
シンポジウム2、3
レセプション
9月14日(金) シンポジウム4
昼食
午後 文化イベント